



共同参画

特集1 / スペシャルインタビュー

池田理代子氏にお話を伺いました

フランス革命の次は
日本のジェンダー革命だ！

特集2 / 女性に対する暴力をなくす運動
活動報告

特集3 / 男女共同参画会議
「計画実行・監視専門調査会」

若者が希望を持てる男女共同参画社会を

2021年5月から、第5次男女共同参画基本計画に関する計画実行・監視実行専門調査会（以下、専門調査会）に委員として参加している。本稿執筆時点で8回の会議が開かれ、科学技術、政治・経済分野における女性活躍推進、ジェンダーに基づく無意識バイアス、性と生殖に関する健康と権利、選択的夫婦別姓など、日本の持続可能性に関わる重要課題や、世論の関心が高い分野を扱ってきた。

第5次計画は2020年12月25日に閣議決定され、その過程で5600件ものパブリックコメントが寄せられた。特に注目すべきは30代以下の女性を中心とする若者グループが自主勉強会を開いて政策文書を読み込んだ上で、若者視点の「提言」をまとめて橋本聖子大臣（当時）に直接手渡したことである。専門調査会においては、林伴子局長が「諸外国の女の子が当たり前に持っているのに日本にはないもの」について情報収集、分析し委員に伝えている。

若い世代は社会の未来を担う大事な存在だ。しかし日本の人口は高齢層が多く若者は少数派である。政府の審議会委員なども私を含め40代以上の中高年層で占められている。こうした中、若者の声を着実に受け止める、政官トップの動きは心強い。

大学生とジェンダーに関する話をするとき「男/女だから●●しなさい」と言われた経験を多くの人が持っている。「性教育をもっときちんとやるべき」「選択的夫婦別姓はやらない理由が分からない」といった意見が男女ともに学生から出てくる。いずれも専門調査会で議論したテーマであり、次世代の求めに応える責任をあらためて感じた。

この専門調査会はオンライン会議システムZoomで行われている。新型コロナウイルスの感染拡大防止という本来の目的に加え、オンライン会議は多様性と包摂性を確保する上でも役立っている。名古屋、徳島、香川などから参加する委員の話は毎回勉強になっている。傍聴者も多い時は100名近く、首都圏外の県庁で男女共同参画に携わる人から「大変勉強になった」という声をいただくこともある。多忙なメディア関係者が業務の合間に参加することもできる。今後も性別、世代、地域など多様な人々を包摂し政策論議が進むように力を尽くしたい。



治部れんげ

Renge Jibu

東京工業大学

リベラルアーツ研究教育院准教授

"Kyodo-sankaku"

共同参画

1

January 2022
Number 152

目次

Contents



©池田理代子プロダクション

今月号の表紙

インタビュー記事に合わせ、池田先生のイラストを使用させていただきました。
吹き出しで今年も男女共同参画を力強く進めて行くという意気込みを表現しています。

Special Feature

特集 1 Page.2

スペシャルインタビュー

池田 理代子氏にお話を伺いました

特集 2 Page.7

女性に対する暴力をなくす運動 活動報告

特集 3 Page.9

男女共同参画会議「計画実行・監視専門調査会」

Topics

行政施策トピックス 1 Page.11

ウーマン・オブ・ザ・イヤー2022

行政施策トピックス 2 Page.12

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」参加者の取組

News & Information

ニュース & インフォメーション Page.13

ダイバーシティ・マネジメントセミナーをオンラインで開催します！

ほか

公式Facebook



男女共同参画局 Facebook

<https://www.facebook.com/danjokyodosankaku>



公式ホームページ



内閣府男女共同参画局

Gender Equality Bureau Cabinet Office

<https://www.gender.go.jp>



Special
Feature

1

池田 理代子氏にお話を伺いました

内閣府男女共同参画局総務課



池田 理代子氏



林 伴子氏

男女共同参画局 局長



「ベルサイユのばら」執筆の時代

林局長：今年（2022年）は、「ベルサイユのばら」連載開始50周年になります。私は、少女の頃から「ベルサイユのばら」（以下「ベルばら」という。）も「オルフェウスの窓」も大好きでした。今、男女共同参画局の若い職員に聞いても「ベルばら」は皆知っていて、読み継がれていく作品だと改めて思います。また、「オルフェウスの窓」も、その後私は仕事でヨーロッパに住むことがあったのですが、ドイツの雰囲気や空気感が見事に絵の中に現れていて、すばらしい作品だと思っています。

池田氏：ありがとうございます。

林局長：本日は男女共同参画社会の実現に向けて、御自身の作品や御経験を交えてお話を伺えればと思っています。

早速ですが、まずは「ベルばら」のお話を伺いたいと思います。「ベルばら」という作品は当時の少女たちに、女性はこんな生き方もできるのだと強烈な印象を与えたと思います。オスカルが信念を持って生きている姿も素晴らしいと思いますし、軍隊という男社会の中で女性のリーダーとして部下を率いていく姿は、ドラクロワの「民衆を導く自由の女神」のイメージに重なります。あのオスカルの姿は鮮烈でした。

考えてみると、「ベルばら」を書かれた時代は1970年代で今から50年前です。まだ女性が社会に出て働くことが難し

かった時代に、男社会で働く女性を主人公に据えようと思ったきっかけがあるのでしょうか。

池田氏：もともとマリイ・アントワネットの生涯を描きたいという思いで高校生の頃から温めていたのですが、オスカルを通じて当時自分が言いたかったことが表現できたかなと思っています。

林局長：それは女性が対等な立場で仕事をし、経済的に自立するということでしょうか。

池田氏：今の人たちには想像がつかないと思いますが、当時、漫画というものが非常に蔑まれていて、むしろ害毒だと思われるのです。多くの大人が子供たちに漫画を読むことを禁じていたという時代で、もちろん読んで、とても褒めてくださる方がいた一方で、子供たちに害毒を流しているという叩かれ方をしたのです。私はかなり矢面に立たされて、漫画は文化として扱ってもらえないのだという思いをととても強くしました。編集の人たちと一緒に、いつか漫画が読み継がれていくものにしたいという思いを持って描いていました。

また、当時同じ雑誌に描いていて、同じくらい人気があったとしても、女性は男性の半分の原稿料しかもらえなかったのです。おかしくないですかと言ったら、「お金に汚い女だ」と言われました。それに「女性はやがて結婚して男性に食べさせてもら

うのだから、男が倍もらうのは当然だ」とも言われたのです。そういう時代でした。

林局長：それはひどいですね。

池田氏：「ベルばら」がすごくもてはやされて社会的なブームになったことで、見も知らない男性から電話がかかってきて、「女のくせに生意気だ」と言われました。私、家を建てたのですが「女のくせに家を建てやがって」とも言われました。あなたからお金をもらっているわけではないと喧嘩しましたが。今思うと夢のようですね。

林局長：本当にひどいですね。ショックを受けます。

池田氏：50年前というのはそういう時代で、家を建てるのに、住宅ローンを組もうと思っても、女だということで取引銀行から断られました。

林局長：いわゆる男社会そのものですね。そんなことがあったとも知らず、少女の私はオスカルにあこがれたものでした。

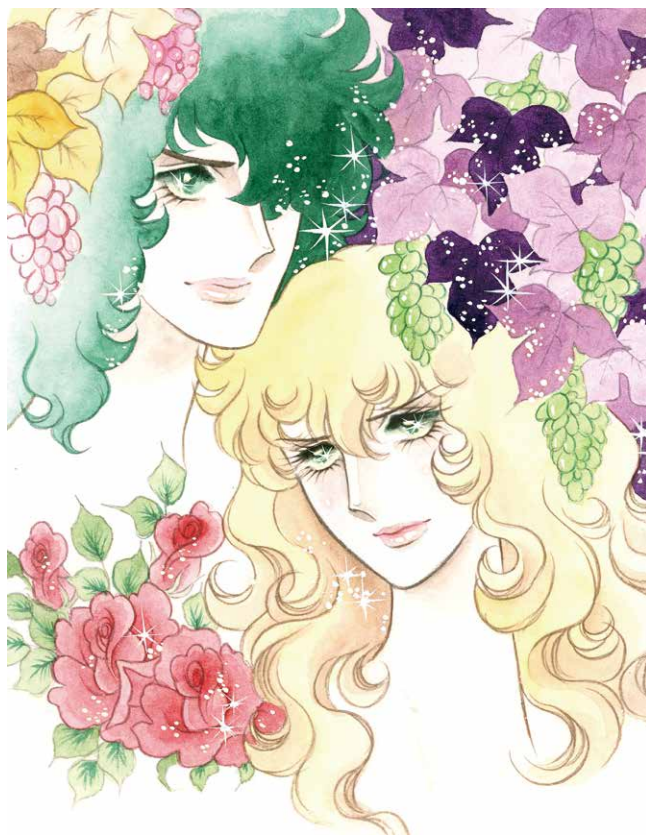
池田氏：ありがとうございます。私は小学生の女の子向けに描いたつもりだったのですが、仕事を持っている女性たちからの支持もとても多くてびっくりしました。

林局長：当時の社会状況を考えたら、オスカルのように生きたいと思う女性が本当に多かったのでしょうか。

池田氏：そうですね。それと、働いている女性はアンドレのような理解があって、頼れる男性を求めているということも思い知りましたね。

林局長：今回のインタビューに当たって、私ども男女共同参画局の女性職員に「ベルばら」に魅力的な男性が数多く出てくるけれど誰が好きかと聞いて手を上げてもらうと、アンドレが圧倒的人気でした。

池田氏：当時、頑張って働いていた女性たちは「アンドレがほしい」とみんな思っていたみたいですね。私自身はそういうことを考える暇もなく忙しくしていましたが、オスカルのような女性の隣にはアンドレのような男性が必要なのだろうなと思いました。



©池田理代子プロダクション

「オルフェウスの窓」はライフワーク

林局長：次に「オルフェウスの窓」についてお伺いします。先日、東京大学の生協の書店にまいりましたら、「東大生が勧める中高生に読んでもらいたい本」のコーナーに「オルフェウスの窓」が並んでいて、漫画はこれだけでした。連載完結から40年経ちますが、こちらも読み継がれている作品ですね。

池田氏：うれしいですね。私にとっては「ベルばら」は代表作ですが、「オルフェウスの窓」は言わばライフワークだと思っています。「ベルばら」は小学生向けという制限もありましたから、描きたいことが全て描けたわけではありませんし、2年に満たない短い連載でした。「オルフェウスの窓」は好きなので描かせていただいたということで、私にとってのライフワークだと思っています。

林局長：読み返してみると、時代設定が今と重なる部分があると感じました。昨今、世界を見渡すと、IT革命などの技術革新とグローバル化で経済が発展する一方で、国内の所得格差が拡大し、その結果、政治が大きく変動している国もあります。「オルフェウスの窓」の舞台となった19世紀末から第一次大戦に至る時代の欧州も、第二次産業革命により経済は発展する一方、国内の所得格差が拡大し、政治は激動しました。現代と似ているところもあり、作品を読むと色々なことを考えさせられます。あの時代に着目された理由は何かあるのでしょうか。

池田氏：たまたまロシア革命を描きたいという思いがあったのと、子供のころ音楽大学に行きたくて勉強していたのですが、途中であきらめてしまったので、音楽の世界に生きている青春というのを描いてみたかったというのがあります。「ベルばら」を描いていたころはそんなにお金もなかったもので、事前に調査もできず、飛行機にも乗ったことがなかったので、フランスにも行ったことがなくて、「ベルばら」のおかげでヨーロッパに行くことができるようになって、実際に舞台になったところを見ることができましたので、私にとっても記念になる作品だと思っています。

林局長：以前、ドイツのレーゲンスブルクに偶然電車から降りて、大変気に入られて舞台にされたという先生のお話を拝見したことがあります。私もレーゲンスブルクに行って、中世から続く古い街並みと大聖堂に「なるほど、こういうところなのか」と感激した覚えがあります。

池田氏：私が行った頃は、日本人を見たことがないという人ばかりで、珍しがられました。その後、レーゲンスブルクの市の観光局長から手紙をいただいて、「レーゲンスブルクという街は観光ルートとして宣伝しているわけではないのに、最近日本から若い女性が多く来て、皆同じ本を持っている。何かと思って聞いてみたら、あなたの本を皆持っていて街を回っている。大変感謝している」ということでした。レーゲンスブルク大学の図書館には「オルフェウスの窓」が全巻入っています。私にとってはある意味初めて触れた本物のヨーロッパだったので、とてもうれしかったです。

林局長：「オルフェウスの窓」は、ユリウス、クラウス、イザークという主人公たちだけでなく、個性が際立つ名脇役が数多く登場することも魅力だと思います。

また、マリア・バルバラやカタリーナなど、既存の枠にとらわれず自立していく女性の姿が描かれているのも印象的でした。当時は、イギリスなどで女性参政権運動があった時代ですが、女性が自立することにあこがれがあっても実際には難しい時代に、事業家になったマリア・バルバラや看護婦長になったカタリーナの姿がいきいきと描かれていました。

池田氏：自分の信念に従って生きた女性たちが描けたかなと思います。女として独立して生きていくというのは、現実にはある意味すごく大変な時代だったと思いますが。



©池田理代子プロダクション

時代を先取りした「クローディーヌ…！」

林局長：私は、「クローディーヌ…！」という作品も好きです。今で言うトランスジェンダーを取り上げておられて、その御慧眼に感服いたします。

池田氏：「クローディーヌ…！」を好きと言ってくれるのはおどろきでした。「クローディーヌ…！」の他にも子供のいじめの問題を題材にした短編もあるのですが、かなり昔に描いていて、いずれも早すぎたのかなと思います。でも、自分の短編の中でも「クローディーヌ…！」が一番好きな作品です。

林局長：とても切ないお話ですよ。あの当時にLGBTQに着目されたというのは何かきっかけがあるのでしょうか。

池田氏：フランスのボスという心理学者の本にクローディーヌの症例が載っていて、「単にクローディーヌをトランスジェンダーとしてだけとらえることはできない。要するに違った性を持って生まれてきたのだ」というのが書いてありまして、それがヒントです。

林局長：そうだったのですね。今、日本ではLGBTQの理解増進法案ですら通らないという状況です。

池田氏：選択的夫婦別姓もそうですよね。いつまでも解決しない、日本だけが取り残されていくというのは非常に残念な思いです。

男女共同参画の実現に向けて

林局長：現在、日本のジェンダーギャップ指数は120位で、先進国最下位です。先生が「ベルばら」を描かれた頃よりは、女性を取り巻く状況は良くなったかもしれませんが、他の国に比べれば大変遅れています。この状況でどんなことをすべきか、何が大切だと思いますか。

池田氏：私は、やはり一つはクォータ制だと思います。特に

選挙の候補者については絶対に必要なことだと思います。それと同時に女性の方もちゃんと勉強すべきです。男性と対等に論戦を張れるような女性が出てきてほしいと思います。

林局長：今、日本の有権者の52%が女性で、女性の方が多数派であるにも関わらず、女性の議員がこんなに少ないのは非常に残念です。

池田氏：テレビを見ていて、経済問題でも社会問題でも論客と呼ばれる女性が多くいらっしゃるの、こういう方々に立候補してもらいたいですね。

林局長：今年の10月、政府が主催または後援するシンポジウムなどの行事で、登壇者は男性ばかりというものは認めないというルールを全ての省庁で決めることにこぎつけました。こうした努力を一つ一つ積み重ねて、優秀な女性が活躍してもらえる環境をつくっていきたいと思います。

池田氏：江戸時代もそうですが、農業をやっている人たち、漁業をやっている人たちは、男女共同参画だと私は思うのです。専業主婦はいないですよ。日本では、男女が一緒に働いて支え合うという歴史は古いと思います。ところが、農村にしろ、漁村にしろ、女性たちが自分たちは働いている女だという自覚があまりなかったのかなと思ったりします。すごく立派な男女共同参画だと思うのですが。

林局長：高度経済成長期に専業主婦でいられる時代になったということで、男性は外で働く、女性は家事という役割分担意識が定着してしまったという気がいたします。

池田氏：すごく贅沢なことですよ。今、オペラの台本を書いています、その中にフィンランドで上演されたものがあって、専業主婦が出てくる場面があったのですが、それを書き直してもらえないかとフィンランドの方に言われたのです。専業主婦が何なのかフィンランドの人には理解できないからだそうです。女性も当然働いているものであって、働かないで家にいるのがわからないそうです。仕事を持っている女性に書き換えてくれと言われ、びっくりしました。

林局長：フィンランドには専業主婦はいないからということなのですか。

池田氏：そうみたいです。専業主婦というのは日本に独特の存在になりつつあるのかなと思いました。

林局長：日本も、最近は家族が多様化していますので、昭和の時代にできた専業主婦モデルやその意識は現実に合わせてなくなっていると思います。コロナ下のひとり親の経済的困窮の問題に表れたように、そもそも年間に婚姻が60万件ある一方で離婚も20万件あり、家族も女性の生き方も多様化しているのにもかかわらず、制度やさまざまな仕組みが古く、令和の時代に追いついていないですね。

池田氏：結婚して夫婦同姓になる時はほとんど男性の姓を名乗りますよね。私は離婚経験がありますので、すごく大変な思いをしました。色々なところに姓が元に戻りましたという手続をしなければいけないのです。

しかも、生まれた時に姓に合わせて名前を付けてくれていると思うので、それが変わるのはどうなのかなと思いますね。親が一生懸命考えてくれた名前ですから、自分の名前を大事にして生きていきたいですね。今、結婚適齢期もかなり遅くなっていますから、独身で働く女性も増えてきています。自分の名前というのは自分のアイデンティティとして世間に通っているものですから、それを変えるというのは本当に大変ことだと思います。

林局長：本当にそうだと思います。本日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

本インタビューで言及されている 作品について

ベルサイユのばら

男装の麗人オスカルを主人公に、マリー・アントワネットやフェルゼンといった実在の人物との関わりを通じて、激動のフランス革命を描いた作品。

オルフェウスの窓

レーゲンスブルクの男子の音楽学校で出会った、ユリウス(実は女性)と運命的な出会いをしたイザーク、クラウド3人の物語。第一次世界大戦やロシア革命といった史実を織り混ぜ、舞台もドイツ、オーストリア、ロシアと変遷していく壮大な作品。

クローディーヌ…！

女性として生まれながら男性の心を持ったクローディーヌの愛と苦悩の物語。愛する女性と決して結ばれることのない切ない心の内を精神科医の目線から描いた作品。

Profile



池田理代子氏
大阪府出身

- 1967年 『バラ屋敷の少女』で漫画家デビュー
- 1972年 『ベルサイユのばら』連載開始
- 1975年 『オルフェウスの窓』連載開始
- 1980年 『オルフェウスの窓』で第9回日本漫画家協会賞優秀賞受賞
- 1995年 東京音楽大学声楽科に入学し、1999年に同大学卒業
- 2009年 フランス政府からレジオン・ドヌール勲章シュバリエ章が授与
- 2020年 第一歌集『寂しき骨』出版

女性に対する暴力をなくす運動 活動報告

内閣府男女共同参画局男女間暴力対策課

11月12日(金)～25日(木)までの2週間、「女性に対する暴力をなくす運動」を実施しました。女性に対する暴力の根絶を呼びかけるパープル・ライトアップは、今年初めて全国47都道府県が参加し、迎賓館赤坂離宮をはじめとする過去最高の342カ所で実施されました。また、全国各地でラジオ、インターネット等を利用した広報キャンペーンや、講演会、講座などのイベントが開催されました。

全国各地で様々な取組を実施

11月25日には、野田大臣が、性暴力の実態や性暴力対策の強化について、女性に対する暴力に関する専門調査会会長の小西聖子氏、性暴力救援センター・SARC東京理事長の平川和子氏、性暴力被害者支援看護職の山本潤氏と意見交換を行いました。

企業の賛同として、今年も日本ロレアル株式会社に御賛同いただいたほか、日本経済団体連合会から会員のみなさまに賛同の呼びかけをしていただき、株式会社 資生堂をはじめとする5つの企業でポスター掲示等、賛同の輪を広げていただきました。

来年度も様々な関係者と連携し、この運動を一層推進していきます。

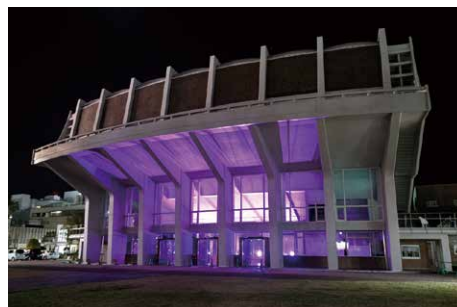
山口県

はい!からっと横丁
大観覧車

岡山県 嵐山公園



鳥取県 米子市公会堂



福岡県 旧福岡県公会堂貴賓館



鹿児島県 いおワールドかごしま水族館



大阪府 アイセル シュラ ホール



京都府 京都タワー



佐賀 福岡 山口 島根 鳥取 京都
長崎 大分 広島 岡山 兵庫 大阪
熊本 宮崎 愛媛 香川 奈良
鹿児島 鹿兒島 高知 徳島 和歌山
沖縄

北海道 北海道大学古河記念講堂



東京都 迎賓館赤坂離宮



ライトアップ
期間中、前庭
のキッチン
カーでは、
パープルのメ
ニューが提供
されました

埼玉県 国立女性教育会館



東京都 経団連会館



東京都 日本ロレアル株式会社



運動への賛同を表明するパープルリボンを着用する
ジャン・ピエール・シャリトン 代表取締役社長(右)
と楠田倫子 ヴァイスプレジデント、コーポレート・
アフェアズ&エンゲージメント本部長(左)

東京都 株式会社 資生堂



ポスターや運動の趣旨を社内のデジタルサイ
ネージで掲示

東京都 野田大臣との意見交換



女性に対する暴力撤廃国際デーに、大臣と性暴
力被害者支援団体・関係者との意見交換を実施

茨城県
常総市地域交流センター
豊田城



北海道

青森 岩手

秋田 宮城

富山 新潟 山形 福島

福井 石川 長野 群馬 栃木

滋賀 岐阜 山梨 埼玉 茨城

愛知 静岡 神奈川 東京 千葉

三重

愛知県 ポートレース蒲郡



全国で実施されたパープル・ライトアップは
ウェブサイトでも公開しています。ぜひ御覧ください。



https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/no_violence_act/index.html



男女共同参画会議「計画実行・監視専門調査会」

内閣府男女共同参画局総務課

関係閣僚と民間有識者により構成され、男女共同参画に関する大きな方向性について総理官邸で議論を行う「男女共同参画会議」の下には、より具体的な議論を行うための二つの専門調査会が設置されています。一つは「計画実行・監視専門調査会」、もう一つは「女性に対する暴力に関する専門調査会」です。

今回は、このうちの「計画実行・監視専門調査会」（以下「専門調査会」）について御紹介します。

■専門調査会の概要について

専門調査会では、令和2年12月に閣議決定した「第5次男女共同参画基本計画」の実行状況の監視を行うとともに、各府省が当該年度及び翌年度に重点的に取り組む事項を取りまとめ、翌年度予算の概算要求に反映させるために策定する「女性活躍・男女共同参画の重点方針」、いわゆる「女性版骨太の方針」について議論を行っています。



専門調査会における議論の様子①

我が国のジェンダー・ギャップ指数は120位、先進国最下位と大変残念な状況にあり、これまでとは違う異次元のスピードで取組を進める必要があります。

そのためには、ジェンダー平等を阻む、昭和の時代の家族像を前提に形成された「意識」、「制度」、「慣行」など、様々な構造問題に切り込んでいく必要があります。

専門調査会では、本年6月を目途とする重点方針2022の策定を見据え、男女間賃金格差やクォータ制、女性の視点も踏まえた税・社会保障制度、アンコンシャス・バイアスなど、様々な課題について議論をすることとしています。

専門調査会で取り扱う課題

- ①賃金格差も含めた経済的格差【11/25】
- ②クォータ制を含む積極的改善措置
- ③女性の視点も踏まえた税制や社会保障制度
- ④コロナの影響の継続的把握
- ⑤公共調達の活用による女性活躍
- ⑥科学技術分野における女性活躍【10/26】
- ⑦仕事と子育ての両立を阻害する慣行
- ⑧アンコンシャス・バイアス【9/30】
- ⑨ジェンダー統計の推進と活用【12/3】
- ⑩旧姓の通称使用の拡大やその周知、夫婦の氏に関する具体的な制度の在り方の更なる検討【9/30】
- ⑪女性の生理と妊娠等に関する健康【10/20】
- ⑫立法・司法・行政におけるジェンダーバイアス【11/17、12/3】
- ⑬企業活動に関する国際的な枠組み

※【】内はすでに議論した日付（令和3年）

有識者委員は、大学や経済界、地方自治体、法曹など、様々な分野で活躍されている方々から構成されており、また、各分野の政策の責任者である各府省の局長・審議官も討議に参画するなど、政府をあげて、男女共同参画の未来に向けた議論が行われています。

計画実行・監視専門調査会 委員

令和3年4月28日現在
(50音順、敬称略)

石黒	不二代	ネットイヤーグループ株式会社代表取締役社長兼CEO
井上	久美枝	日本労働組合総連合会総合政策推進局長
大崎	麻子	関西学院大学客員教授
窪田	充見	神戸大学大学院法学研究科教授
佐々木	成江	名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻准教授、 お茶の水女子大学ヒューマンライフイノベーション研究所准教授
※◎佐藤	博樹	中央大学大学院戦略経営研究科教授
治部	れんげ	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授
※白波瀬	佐和子	東京大学大学院人文社会系研究科教授
徳倉	康之	NPO法人ファザーリング・ジャパン理事、 株式会社ファミリーエ代表取締役社長
※内藤	佐和子	徳島市長
※山口	慎太郎	東京大学大学院経済学研究科教授
山田	秀雄	山田・尾崎法律事務所代表弁護士

(◎印：会長、※印：男女共同参画会議議員)

重点方針2022の策定に向けたスケジュール

R3.11.29	男女共同参画会議 重点方針2022に向けた キックオフ・柱の決定
～ R4.4メド	専門調査会で議論 ・計画実行・監視専門調査会 ・女性に対する暴力に関する専門調査会
R4.3～5	男女共同参画会議 重点方針2022に向けた検討 原案とりまとめ
R4.6	重点方針2022 政府決定 (すべての女性が輝く社会づくり 本部・男女共同参画推進本部)

重点方針2022の策定に向けて

重点方針2022の策定に向けて、昨年11月に開催された第65回「男女共同参画会議」において、野田聖子男女共同参画担当大臣から、

- I 女性の経済的な自立
- II 女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現
- III 男性の家庭・地域社会における活躍
- IV 女性の登用目標達成

(第5次男女共同参画基本計画の着実な実行)

の4つの柱立てが示されました。また、締めくくりに岸田文雄内閣総理大臣から、引き続き議論を深め、実効性ある具体策を取りまとめるよう、関係閣僚に対して指示がありました。

総理からの指示を踏まえ、各府省において検討を進めるとともに、専門調査会において、様々な課題について議論を深めています。



男女共同参画会議における議論の様子

専門調査会の傍聴について

専門調査会はオンラインシステム (Zoomウェビナー) により開催されており、男女共同参画局のHPから事前に御登録いただければ、全国どこからでも、どなたでも傍聴が可能です。

御興味のある方は、是非御登録下さい。



専門調査会における議論の様子②

専門調査会の資料や議事録は
男女共同参画局のHPに掲載しております。

URL https://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/keikaku_kanshi/index.html



ウーマン・オブ・ザ・イヤー2022

令和3年11月27日(土)、日経BPが今年、最も輝かしい活躍をされた女性に贈る、日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2022」(株式会社日経BP主催、内閣府後援)の表彰式が行われました。

内閣府男女共同参画局総務課

後援の挨拶

林伴子男女共同参画局長が挨拶を行いました。受賞者の皆さんは、御自身の力でたくましく道を切り開いてこられたバラエティに富んだ御経験をもちの方ばかりで、次世代を担う女性たちの良きロールモデルとして、受賞をきっかけに更なる飛躍を遂げられることを期待する旨のメッセージを寄せました。



受賞者紹介

● 大賞

株式会社coly 代表取締役社長
中島瑞木さん(写真左から4人目)

株式会社coly 代表取締役副社長
中島杏奈さん(写真右から4人目)

2014年、25歳で双子の姉妹で起業し、女性にターゲットを絞ったゲームコンテンツを提供。競争の激しいスマホゲーム業界の中でも、ユーザーの95%が女性で異例の急成長。2021年8月には、若手起業家や、女性起業家の支援を見据えた投資・経営サポートチーム「MO inv.」を発足

● 世界に希望を紡ぐ科学者賞

米エール大学医学部 免疫学教授
岩崎明子さん(欠席)

新型コロナウイルスの研究で世界的な成果を挙げ、正しい情報発信にも尽力。科学的な知見を分かりやすく解説できる数少ない専門家として評価

● 理系の新・ロールモデル賞

東洋合成工業株式会社 取締役感光材事業部長
平澤聡美さん(写真右から3人目)

女性が少ない半導体製造業において、48歳で転職して1年足らずで事業部長に。「感光材」事業で世界シェアトップの中堅企業の急成長に貢献する立役者

● 思いやり経営賞

株式会社ドムドムフードサービス 代表取締役社長
藤崎忍さん(写真左から3人目)

元専業主婦から51歳で入社、9カ月後に老舗バーガーチェーン社長へ。斬新なアイデアを次々と繰り出す“大逆襲”を仕掛け、コロナ禍で黒字化達成

● 子育てダイバーシティ賞

社会福祉法人「麦の子会」 理事長・総合施設長
北川聡子さん(写真右から2人目)

札幌市に発達障がいのある子らを支援する55もの施設を設立し、全国に例のない「子育て村」を実現。「すべての人の存在が肯定される社会」を目指す

● 心の揺らぎサポート賞

株式会社cotree 代表取締役/株式会社コーチェット 代表取締役 櫻本真理さん(写真左から2人目)

オンラインカウンセリング「cotree」事業が、コロナ禍の中で、在宅勤務によるストレス、収入低下への不安など、多数の相談が寄せられるプラットフォームに

● 途上国の自立支援に貢献賞

Mpraeso合同会社 CEO
田口愛さん(写真右から1人目)

単身でガーナに渡り、チョコレート工場を建設計画中。カカオビジネスで貧困解決と雇用創出に挑む大学生起業家

● 循環型社会へのイノベーター賞

一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン 代表理事
坂野晶さん(写真左から1人目)

徳島県上勝町で「ゴミを出さない」循環型モデルを推進後、自ら団体を立ち上げ。2021年には脱炭素社会を牽引するイノベーター1000人の育成も開始



「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」参加者の取組

「男性リーダーの会」には、女性活躍の推進にコミットする企業経営者等や知事・市町村長の約270名が参加しています。そのうち、2名の男性リーダーの取組を紹介します。(氏名五十音順)

内閣府男女共同参画局総務課

すべての県民が能力や個性を発揮できる社会の実現

伊原木隆太

岡山県知事



私は、企業経営の経験から「女性を生かせない組織に成長はない」と考えており、本県の持続的な発展のためにも女性活躍の推進は不可欠であると確信しております。

このため、県庁においても、幅広い分野・組織マネジメントが経験できるポストへの女性職員の配置や男性職員の育児休業取得の促進など、職員がそれぞれの能力を発揮し、活躍できる職場づくりに、積極的に取り組んでいます。

岡山県では、昨年3月、男女共同参画社会の実現に向けたさまざまな施策を総合的、計画的に推進するため「第5次おかやまウィズプラン」を策定し、プランに掲げる目標の達成に向け、講演会やセミナー、アウトリーチ支援や女性ロールモデルの紹介などを通じ、県民や企業の意識改革や取組への支援を行っているところです。

さらに、企業や経済団体の職員、専門家が参加するプラットフォームを新たに設置し、参加者自らが企業などにおける女性活躍に向けた課題解決に取り組む事業も展開しています。

今後も、「男性だから、女性だから」ということではなく、すべての県民が共に活躍できる男女共同参画社会の実現に向けて、市町村や企業などと連携しながら取組を進めていきます。



オール岡山女性活躍推進プラットフォームの設立

全員が主役で、誇りを持ちワクワク働ける企業グループへ!

小林 敬一

古河電気工業株式会社
代表取締役社長



当社グループは、「多様な人材を活かし、創造的で活力あふれる企業グループを目指す」ことを経営理念に謳っており、多様性を高め、挑戦し続けようとする人の成長を支援することを人材マネジメントの基本方針としています。

2014年以降、「ダイバーシティ推進室」や「働き方改革プロジェクトチーム」といった専任組織を設置し、多様な人材が活躍できる職場構築の取組を進めています。

当社は、2021年7月に本社オフィスを移転しました。「MIX! OWN COLORS ~新しい色で共に未来を描こう~」のコンセプトの下、ABW(※1)をベースとした「新しい働き方」を実現し、快適なワークプレイスでの対話を通じて生まれる様々な発想を大切にしていより高い価値創出に挑戦しています。

その過程では新型コロナ拡大による社会変容を受けて、私たちの働き方も大きく変わりました。一人ひとりが制約を乗り越えながらも働く意義を考え、自分らしい働き方を実現することは、女性の活躍の場の広がりにも繋がっていると実感しています。

今後もさらなる活躍の場を生み出すべく、環境整備や意識変革の取組を加速し、従業員全員がワクワク働ける企業グループを目指してまいります。



本社移転コンセプト：MIX! OWN COLORS
～新しい色で共に未来を描こう～

※1 ABW=Activity Based Working
業務や気分に合わせてオフィス内の場所を自ら選択するワークスタイル



「男性リーダーの会」について、
詳しくはこちら

URL

https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders/index.html



News

01

ダイバーシティ・マネジメントセミナーをオンラインで開催します！

内閣府

内閣府男女共同参画局は日本経済団体連合会と共催して、ダイバーシティ・マネジメントセミナーを開催します。「ダイバーシティ&インクルージョン時代における初期キャリア形成」をテーマに、味の素の取締役 代表執行役社長 最高経営責任者 西井孝明氏からダイバーシティ推進に対する考えや取組、今後の課題等について御講演いただきます。また、千葉銀行の淡路睦氏、MS & AD インシュアランスグループホールディングスの本島なおみ氏から、先進企業の好事例を御紹介いただくことを通じて、ダイバーシティ・マネジメントに対する理解を深めます。

経営者、管理者、ダイバーシティ担当者の皆さまをはじめ、どなたでも御参加いただけます。

■セミナー概要

日 時 令和4年2月2日(水) 14:00~15:30

開催方法 オンライン配信(Zoom ウェビナー)

※事前申込制、参加費無料

詳細は、こちらを御覧ください。

URL <http://www.cao.go.jp/wlb/event/meeting.html>

News

02

「男女共同参画の視点による災害対応研修」を開催しました

文部科学省

国立女性教育会館(NWEC)では、10月8日に「男女共同参画の視点による災害対応研修」を内閣府男女共同参画局との共催でオンライン開催しました。

男女共同参画の視点による災害対応については「防災基本計画」「第5次男女共同参画基本計画」、国際的な防災取組については「仙台防災枠組」やSDGsの第11目標等で明確に示されているものの、まだ十分に整備されていないのが現状です。そこで地域防災の中心的な役割を担う自治体職員、学校関係者、防災士など、地域防災に関わる様々な立場の方々を対象とし、地域防災における多様な主体との連携に焦点を当て、その意義や具体的なプラットフォームづくりにつながる情報提供を行いました。講義後の質疑応答では、講師陣が一堂に会し、参加者からの質問にそれぞれの専門的な知見を生かした回答を行い、充実した研修となりました。

研修の動画は、ライブ配信の翌週から約1カ月半にわたりオンデマンドでも配信。全国各地から1,300名近くの参加があり、「行政、地域、学校などと連携を図ること、平常時からつながることの重要性を感じた」「今後の地域防災計画見直しの参考となった」等の感想が寄せられました。



詳細は、こちらを御覧ください。

URL https://www.nwec.jp/event/training/g_saigai2021.html

News

03

ダイバーシティ&インクルージョン講演会を開催します

人事院

人事院は、「個々が強みを発揮できる働き方の実現に向けて」と題して、組織におけるダイバーシティ&インクルージョンをテーマにオンライン講演会を開催します。ジャン・アダムズ駐日オーストラリア大使、高橋和夫東急株式会社代表取締役社長をお迎えして、多様性の尊重や柔軟な働き方の推進に関する取組を御紹介いただき、誰もが働きやすい環境づくりについて議論します。ぜひ御参加ください。



アダムズ大使



高橋社長

日 時 令和4年2月3日(木) 15:00~16:30

開催方法 オンライン(ライブ配信・後日録画配信)

※参加費無料、要事前登録(1月31日(月) 締切)

詳細は、こちらを御覧ください。

URL <https://www.diversity-and-inclusion.net/index.html>

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」1月号
 <https://www.gender.go.jp>
<https://www.facebook.com/danjokyodosankaku>

第152号
編集・発行
2022年1月7日発行
内閣府
〒100-8914
東京都千代田区
永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局
総務課
電話 03-5253-2111 (代)
印刷 株式会社アイネット
表紙デザイン 株式会社マージュ

令和4年度

「男女共同参画週間」6月23日～29日

キャッチフレーズを募集します!

募集テーマ

「男だから」「女だから」といった性別役割意識にとらわれず、
個性と多様性を尊重し、自身の可能性を信じて
誰もが生きがいを感じられる社会を
実現していくきっかけとなるキャッチフレーズ

「男だから」「女だから」といった性別役割意識の

「思い込み」「決めつけ」「押しつけ」を感じたことはありませんか?

ユース世代(15～20歳)の皆さんから、このような無意識の思い込みをなくし、

自らの可能性を広く信じ、前向きに、それぞれの個性と多様性を尊重し、

生きがいを感じられる社会を実現していくためのキャッチフレーズを募集します。

これからの時代を創り上げていくのは皆さんです!

皆さんの創り上げる未来をイメージしたキャッチフレーズをご応募ください!

応募要項

応募資格

15歳から20歳にあたる方(平成14年(2002年)4月2日から
平成20年(2008年)4月1日生まれ)であれば、どなたでもご応募いただけます。
ただし、応募作品は未発表の自作のものに限ります。

応募期間

令和4年(2022年)1月11日(火)～令和4年(2022年)2月25日(金)

応募方法

内閣府男女共同参画週間ホームページのキャッチフレーズ募集ページから、
応募フォームに必要事項を入力の上、ご応募ください。

詳細はこちらをご確認ください

<https://www.gender.go.jp/public/week/week.html>



選考方法

内閣府及び男女共同参画週間応援サポーター(審査員)による
厳正な審査により決定します。

令和3年度 最優秀作品



過去の受賞作品はこちら



- 最優秀作品は、令和4年度男女共同参画週間のポスターをはじめ、様々な機会に使用します。
- 最優秀作品、優秀作品は男女共同参画週間中に表彰いたします。
- 選定については、令和4年4月(予定)にホームページ等で発表します。

問合せ先

内閣府男女共同参画局総務課「男女共同参画週間キャッチフレーズ募集係」
e-mail : equality-kouhou@cao.go.jp

応募フォーム等に記載された個人情報は、本公募に関連する用途に限って使用し、法令に基づき適正な管理を行います。

- ・応募作品は、返却しません。・著作権等の侵害による争議が生じた場合、当局は一切の責任を負いません。
- ・応募作品の著作権は当局に帰属します。・応募作品は、本週間以外にも当局のPR等に使用することがあります。
- ・最優秀作品、優秀作品については、都道府県名、名前、年代等を公開することがあります。